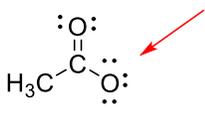
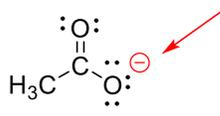
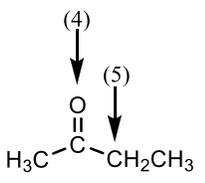
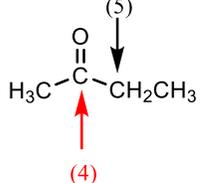
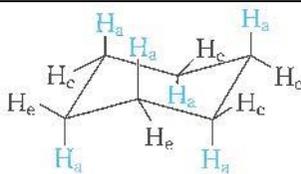
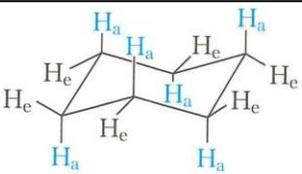
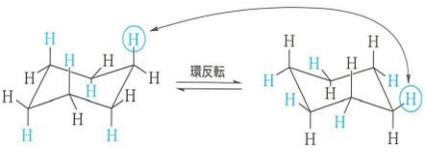
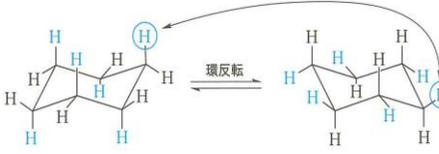
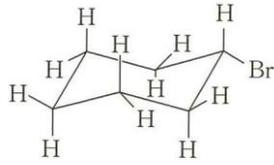
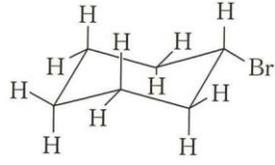
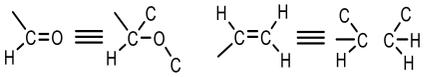
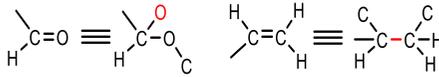
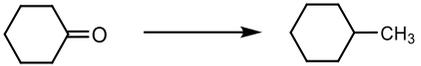


実教出版「Professional Engineer library 有機化学」正誤表（第1刷用）2020年6月時点
 本書には下記のような誤りがありました。おわびして訂正いたします。

箇所	誤	正
p.15 問3(1)		
p.23 問3(4)		
p.29 (2-6)式の 説明文2行目	HCl	H ₂ O
p.44 下段 アキシアル水素 とエクアトリア ル水素の図中		
p.45 環反転		
p.45 例題3-5 図中		
p.47 演習問題 B 3-B2	通常エーテル類は反応性が低い化合物であるが、	通常エーテル類は反応性が低い化合物であるが、
p.68 問1(4)	$\text{HC}\equiv\text{CCH}_2\underset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{CH}_3$	$\text{HC}\equiv\text{CCH}_2\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_3$
p.78 問題2	アルケン	化合物
p.78 問題2(2)	1,2-ジメチルシクロヘキセン	1,2-ジメチルシクロヘキサン
p.81 規則3の 下の図		

p.83 問4 (3)	$\begin{array}{c} \text{H} \quad \text{CH}_3 \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{H}_3\text{C} \quad \text{CH}_2\text{CH}_2\text{COOH} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{H} \quad \text{CH}_3 \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{C} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{H}_3\text{CH}_2\text{C} \quad \text{CH}_2\text{CH}_2\text{COOH} \end{array}$
p.86 上から5行目	-CH ₃	-OH
p.87 比旋光度の式	$[\alpha]_D = \frac{\text{観測した回転角 (度)}}{\text{試料管の長さl (dm)}} \times \text{試料濃度c (g/mL)}$ $= \frac{\alpha}{l} \times c$	$[\alpha]_D = \frac{\text{観測した回転角 (度)}}{\text{試料管の長さl (dm)} \times \text{試料濃度c (g/mL)}}$ $= \frac{\alpha}{l \times c}$
p.91 1行目	C ₅ H ₁₀ O	C ₅ H ₁₂ O
p.101 溶媒和の図中	+K	K ⁺
p.107 3行目以降	<p>しかし、ここではかさ高い塩基ではなく、小さな強塩基なので、生成物はザイツェフ則に従う。</p>	<p>しかし、ここでかさ高い塩基では、生成物はホフマン(Hofmann)則に従う。</p>
p.152 例題 11-3 (1)の問題・解答 生成物の名称	2-ペンタナール	2-ペンテナール
p.158 11-4-7 リンイリドの付加 ホスホニウム塩の構造式	$(\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{P}^+\text{-CHR}$	$(\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{P}^+\text{-CHR}^1$
p.158 最下段 (反応例)の反応式		
p.159 1行目 構造式		

<p>p.163 11・B4 (3) 原料構造式</p>		
<p>p.202 下から 2 段目の反応式 中の名称</p>	<p>アシルアインド</p>	<p>アシルアジド</p>
<p>p.205 問 7 (4) 構造式</p>		